

移住者対談 Uターン、Jターン、Iターンの移住者の
みなさんに集まってもらいました。(2013.11.29)

「空気がいい、人の行き交うなかでの空気がいい」



みなさん、それぞれどうしてこの町を選んだんですか？

(注1)

藤田：会社を辞めて、ハウスとかトマトができる農地を探しました。田舎で暮らしたいという思いは元々あったんですが、松原に来たのはたまたまです。家族も親戚も大反対しましたけどね。

泰希：お世話になった人が居る、それが大きいですね。生活の面でも、まだ町に近いし、寒いのも苦手ということもありました。

(注2)

五月：宇治の牧野さんに、「研修させてください」ってお願いして、無理やり入りました(笑)。貧しい生活をしているけど、理想の場所です。関東にいたときにはお金を払っていた自然の豊かさが、ここには全てある。

森川：僕も研修先が見つからなくて探していたんですけど、牧野さんに誘われて、宇治に越して来ました。

皆川：震災に遭って、(原発から)できるだけ離れているところを探していました。高梁市が一番支援が良かったので選びました。最初に移住したところが窮屈でストレスがたまってしまうって…。宇治で大きめの一軒家を貸していただきました。家庭菜園もやっています。真ん中の子が精神的にストレスが大きく、見守っていますが、学校の先生や地域の皆さんも、何かあれば力を貸してくださいませ。通学中に「元気？学校はどう？」など声をかけてくれて、すごく助かっています。

星川：暖かい場所を全国で探していました。決め手はこの自然です。イノシシはその辺走ってますし、野菜は自分でも少し作っていますけど、近所の人もたくさんくださるんです。あとは柿とかゆずが庭先になっているの
がいいなあって。

稲毛：私もまあ縁でしょうね。田舎暮らしを
したいと思ってあちこち見て回ったんですが、宇治だけは自分を呼んでるような気がして。やっぱり決め手は、空気がいいことですね。人の行き交うなかでの空気がいい。それを思いました。



ふじた いずみ
藤田 泉さん

基本的にはトマト農家。荒廃した茶畑を再生して「高梁紅茶」のブランド化を目指している。松原14年目。



にしの たいき
西野 泰希さん

ブドウを植えるための畑と家を借りて、奈良から移住。借りた畑に来年の春ブドウを植える。松原2年目。



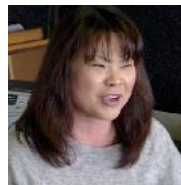
にしの さつき
西野 五月さん

東日本大震災以降に千葉から移住。1児の母。ブドウ作り研修生。宇治2年目。



もりかわ たつや
森川 辰也さん

脱サラして神戸から岡山に来てブドウ農家に。おいしいブドウで食べて行けるように奮闘中。宇治5年目。



みなかわめぐみ
皆川 恵さん

埼玉出身で看護師。3児の母。東日本大震災以降に福島から移住。子供をのびのび育てたくて宇治へ移住。宇治2年目。